

# MATCH関数

## 使い方マスターガイド



※当ガイドに従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。  
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。

# MATCH関数の「役割」を理解する

## MATCH関数の「役割」を理解する

MATCH関数は、「範囲の中で、探したいデータが上から（左から）何番目にあるか」という「位置（番号）」だけを返す関数です。

`=MATCH(検索値, 検索範囲, [照合の種類])`

| 引数      | 内容                                                       |
|---------|----------------------------------------------------------|
| ① 検索値   | 何を探すか。（例: "商品B"、1005、B2セル）                               |
| ② 検索範囲  | どこから探すか。（例: A2:A10）※1列または1行のみ                            |
| ③ 照合の種類 | どう探すか。（0=完全一致、1=以下、-1=以上）<br>実務では、ほぼ100%「0 (完全一致)」を使います。 |

 **例:** `=MATCH("商品B", A2:A10, 0)` → A2:A10の範囲で「商品 B」は3番目にある場合、3 という「数値」が返されます。

# VLOOKUPの「弱点」と「INDEX + MATCH」

# VLOOKUPの「弱点」と「INDEX + MATCH」

---

MATCH関数の真価は、VLOOKUPの弱点を克服することにあります。

## VLOOKUPの弱点

検索値は、必ず範囲の「一番左」の列になければならない。

(例: 社員番号 (A列) で氏名 (B列) を探すことはできるが、氏名 (B列) で社員番号 (A列) を探すことはできない)

## INDEX + MATCHという最強タッグ

この弱点を、INDEX関数とMATCH関数を組み合わせることで解決します。

MATCH関数 → 「行(列)の番号」を見つける(検索役)

INDEX関数 → 「指定された範囲」から MATCH が返した「○番目」のデータを取り出す(抽出役)

# 【実践】「INDEX + MATCH」の組み立て方

## 【実践】「INDEX + MATCH」の組み立て方

この2つを以下のように「合体」させます。

`=INDEX( [取り出したいデータの列] , MATCH( [検索値] , [検索値がある列] , 0 ) )`

**シナリオ：** 社員名簿（D列）から「田中」さんを探し、対応する社員番号（B列）を取り出したい。  
（VLOOKUPでは検索できない左側検索のパターン）

**数式：** `=INDEX( B:B , MATCH("田中", D:D, 0) )`

**解説：**

1. `MATCH("田中", D:D, 0)`  
→D列（社員名簿）から「田中」さんを探し、その「位置（行番号）」を見つけます。（例 ：5）
2. `INDEX(B:B, 5)`  
→B列（社員番号）の「5番目」のデータを取り出します。これで、検索列が左端になくても自由にデータを抽出できます。

# その他の応用テクニック

## その他の応用テクニック

MATCH関数は、「列番号」を動的に指定するためにも使われます。

| 組み合わせ                 | 内容と数式例                                                                                                                                                               |
|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| VLOOKUP + MATCH       | <p>【目的】 VLOOKUPの「列番号」を可変にする</p> <p>例： VLOOKUPの3番目の引数（列番号）を 3 や 4 と手入力する代わりに、MATCH関数で「見出し」を検索させて自動で指定する。</p> <p>=VLOOKUP(A10, A1:E5, MATCH(B9, A1:E1, 0), FALSE)</p>  |
| HLOOKUP + MATCH       | <p>【目的】 HLOOKUPの「行番号」を可変にする</p> <p>上記VLOOKUP検索範囲が横から縦へ逆になったパターン。HLOOKUPの3番目の引数（行番号）をMATCH関数で指定する。</p> <p>=HLOOKUP(A10, A1:E5, MATCH(B9, A1:A5, 0), FALSE)</p>        |
| INDEX + MATCH + MATCH | <p>【目的】 行も列も「動的な表」から抽出する</p> <p>縦軸（行）と横軸（列）の両方をMATCH関数で検索し、INDEXで「X座標とY座標」が交差するセルの値をピンポイントで抽出する。</p> <p>=INDEX(A1:E5, MATCH(A10, A1:A5, 0), MATCH(B9, A1:E1, 0))</p> |

## 【免責】

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。

※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。また当資料は、公開日時点の内容となっております。最新の情報、実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。